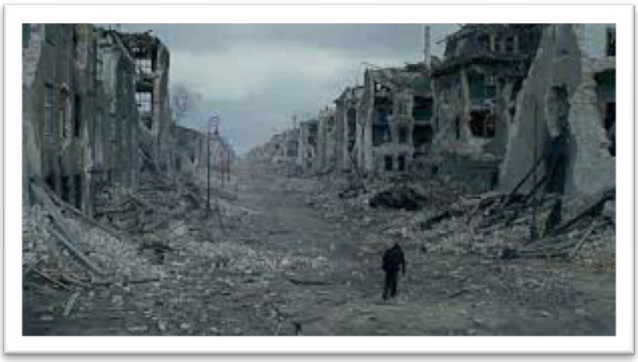
「戦場のピアニスト」

大和田囲碁同好会　成田　滋

忘れられない映画に「戦場のピアニスト」(The Pianist)という戦時中のポーランドの首都ワルシャワを舞台とした作品があります。監督は多くの人道的な映画を作ったロマン・ポランスキです。ワルシャワの放送局でピアニストをしていたユダヤ系ポーランド人、ウワディスワフ・シュピルマンが映画の主人公です。

映画はラジオの収録でショパンのノクターン 20 番を演奏しているシーンから始まります。演奏中に突然ドイツ軍による爆撃を受け、スタジオの窓ガラスが飛び散ります。1939 年ナチスドイツがポーランドに侵攻し、空爆の後にワルシャワはあっという間に占領されます。シュピルマンと家族はユダヤ人居住区であるゲットー（ghetto）に移住させられます。やがて家族は大勢のユダヤ人とともに強制収容所行きの汽車に乗せられのですが、偶然居合わせた知り合いの警備員によって助け出されます。その後友人等の助けによって工場で働きます。シュピルマンは知人の計らいで脱出します。そこも追われ廃墟と化した街を転々と身を隠すのです。

飢えや無差別殺人に脅える日々を強いられます。やがて何十万ものユダヤ人が収容所へ移されるようになる頃、１人収容所行きを免れたシュピルマンは、砲弾が飛び交い、街が炎に包まれる中で必死に生き延びるのです。ワルシャワ蜂起という抵抗運動が起こるのですが、鎮圧されてしまうのを目の当たりにします。



半壊したような建物に潜みながら、そこにある一台の古いアップライトのピアノの前に坐り、音をたてないように鍵盤を弾き始める動作をするのです。建物の中で見つけた缶詰をあけようとするところをドイツ軍将校ホーゼンフェルト大尉に見つかります。素性を尋ねられ名前や職業をきかれたシュピルマンはピアニストだったと答えます。ホーゼンフェルトはシュピルマンになにか曲を弾くように命じます。そこで彼はショパンのバラード第 1 番ト短調を静かに弾き始めるのです。

ホーゼンフェルトも音楽を愛し故郷に家族を残してきた一人です。そして、シュピルマンの演奏に感じ入り、その後寒さをしのぐ軍人用のマントや食糧などを届けるのです。やがて、別れを告げにきたホーゼンフェルトはパンとジャムと一緒に入っていた 1 本の缶切りを渡します。ソ連軍が侵攻してワルシャワは解放され、よれよれの姿でシュピルマンも廃墟からでてきます。ホーゼンフェルトと兵士らは捕虜となり、周りを通りかかるポーランド人からののしられるのです。

終戦後、シュピルマンは同僚のバイオリニストに案内され、廃墟になった郊外を訪れます。収容所から解放されたバイオリニストが、捕らえられた一群のドイツ軍将兵と遭遇し、その中に「シュピルマンを助けた」と主張する将校がいたと伝えます。監視のソ連兵が割って入ったため、バイオリニストはその将校の名前を聞き取ることができなかったという終末です。

ユダヤ人に対して行った組織的、国家的迫害であるホロコーストの悲劇を映画や音楽で訴えるのは時代や人種を超えて人々に訴えるものがあります。

(2022 年 8 月 6 日)